

名 称 あべともこ憲法フォーラム
日 時 2023年03月18日(土)15:00~
場 所 藤沢市民会館
出席者 小久保 誠・安西 孝夫・古越 健之・鎌田 春代・野呂田 進・横溝 貴志(日通湘南物流労働組合)、
高橋 徹 (ヤマト運輸労働組合横浜支部)、望月 博巳(県連)

藤沢市民会館にて開催された『憲法フォーラム』は23回目の開催となり、支援者大勢が出席、運輸労連より8名が参加しました。

今回の憲法フォーラムは、冒頭に岸本杉並区長よりズームにてあいさつがされ、牧山ひろえ参議院議員・水野もと子参議院議員よりそれぞれあいさつ。神奈川12区総支部の各級議員が紹介され講演に入りました。



講演は、防衛ジャーナリストの半田 滋氏より『敵基地攻撃と日米一体化・防衛費倍増は国民負担に!』というテーマ。

半田氏は、国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画3文書改定で『敵基地攻撃能力の保有』が決定し、先制攻撃が可能とする自衛隊と米軍の一体化を強調。米国の統合防空ミサイル防衛(IAMD)への参加は、陸海空、宇宙のあらゆる兵器を統合して敵のミサイルを破壊する計画だが、攻撃的兵器による敵基地攻撃が含まれている。日本が米国の指示通りに自衛隊がトマホークで攻撃をすることもあるのではないか？

地上発射型中距離ミサイルについて、米国とロシアは、中距離核戦力全廃条約(INF条約)の締約国であったために、地上発射型中距離ミサイルは保有していないが中国には弾道ミサイル約1900発、巡航ミサイル約300発保有。ミサイル防衛システムでは迎撃できる数ではない。日本が敵基地攻撃能力を持てば相手の攻撃を抑止できるのか疑問が残る。



米国は、6年以内に台湾有事が起きると指摘している。中国が過去20年軍事力を大幅に増強させていることや、習近平国家主席が「2027年までに台湾進攻を成功させる準備を整えるよう、人民解放軍に指示を出した」との見方を示し、早期の台湾進攻がありうる。ロシア軍によるウクライナ侵攻が目の前で起こる可能性が高い。米軍の対応如何で日本も戦火にのめり込んでいくことになる。と指摘しています。

今回の講演で感じたことは、圧倒的な防衛能力のなさ、米軍に骨抜きにされつくした日本は、これから軍事費を倍増し、米国からありがたく中古の兵器を購入して国民を守ることが出来るのか？日本には原子力発電所がある。ウクライナでも原子力発電所が攻撃的になった。広島サミットでは『原子力発電所への攻撃禁止条約』なるものの発案国となっていたありがたいものだ。

出席者の感想

国防という名の壊国というテーマだったのですが、話を聞く前はあまりピンとこなかったです。

話を聞き終わった後に色々知らなかったことも聞けて、とても為になりました。それと同時に危機感も持ちました。

安全保障の改定で今までの日本は自国防衛だけだったものが、もし自国が攻撃を受けた場合は敵基地にも攻撃が出来るようになり、さらに密接な関係にある他国が攻撃を受けた場合も攻撃が出来るようになったというのには驚きました。

そういう経緯から軍事力強化となり、防衛予算が膨らみその負担は増税という形になり、結局は国民が苦しむ未来が待っているということでも不安になりました。

日本の未来のため、日本が壊国に向かわないためにも、今、自分にも出来ることを考えたとき、政治を変える。そのためには選挙がとても大事だと改めて感じました。

浅い知識だと意見も疑問も出てこないのも、もう少し知識をつけようと思いました。

今回、このようなお話を聞けてとても良かったです。

野呂田 進(日通湘南物流労働組合)

3月18日のジャーナリスト半田滋さんのお話、限られた時間の中でも非常に情報量が多く濃い内容で、とても勉強になり考えさせられる内容でした。

今回の講演を聴くまでは政府が進めている通り、日本を守るために敵基地反撃能力を持っている必要があり、その為の増税は仕方ない事であると漠然と感じていました。しかし、それは日本および東アジアをさらに不安定な状態にする危険性があり、その増税に意味があるかどうかの疑問を強く持ちました。

日本を守る為の方向性を極端ですが2つ挙げるとすると、1つ目は、防衛力(軍事力)を増強し、敵基地攻撃可能をはじめする様々な法整備を進め、強力な抑止・反撃の実行力を持つ事。2つ目は、半田さんが主張されていた、命がけの外交による平和の実現。

その2つのいずれかの選択になると考えます。

しかし、1つ目の方法を選択した場合、日本だけでなく世界が明るい未来へ辿り着く事が到底できと思えません。

理想的なものであるかも知れませんが、やはり日本・東アジアおよび世界の進むべき道は、2つ目の方法であって欲しいと強く願います。

横溝貴志(日通湘南物流労働組合)